

大牟田市立みなと小学校

1 本校のESDの特徴

本校は福岡県の最南部に位置する小学校であり、南側は隣県である熊本県荒尾市に隣接し、西側は有明海と接している。昭和時代まで石炭産業の中心として機能していた地域であり、石炭の積み出しのために建造された三池港や、石炭産業に関連する工場群が広がっている。

本校では、有明海に接し、校区に三池港を有するという地理的条件を生かし、有明海を教材とした「海洋教育」に取り組んでいる。この海洋教育については、有明海に流れ込む諏訪川沿いに位置する天領小学校、天の原小学校と連携しながら、「森→川→海」の視点で総合的に海洋の特長や課題を捉えていく、「デルタ型海洋教育」を展開している。



2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

SDGsの目標14「海の豊かさを守ろう」を核に据え、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターのご指導を頂きながら、天領小学校、天の原小学校と連携して海洋教育に取り組んでいる。今年度の全体計画は下表1の通りである。また、現在、三校連携の機能強化を目指して来年度実施の活動計画の改善に取り組み、研修会を実施している。

学年	海洋教育テーマ	活動内容
3年	海を知る/海に親しむ	有明海の干潟の様子や干潟に棲息する生き物を観察し、その固有の生態を調べて、天領小学校と情報交換しながら生物多様性について考える。
4年	海を知る/海を守る	元三池海水浴場のごみについて調べ、自分たちの生活が海に与える影響を考えて、ごみを捨てないことを地域に呼びかける。
5年	海を知る/海を利用する	三池港の歴史や機能について資料や見学を基に調べ、三池港(海)が自分たちの生活に密接に関わっていることを考え、三池港の価値を地域に伝える。
6年	海を知る/海を利用する	有明海の漁獲量減少の事実を知り、その原因について漁師さんや専門の方と意見交換しながら調べ、これから海と共生するために必要なことを考えて発信する。

表1 みなと小学校 海洋教育全体計画

3 特徴的な活動事例

各学年ともにSDGs「14：海の豊かさを守ろう」を中心に活動に取り組んでいる。本校ではSDGsの目標の関連と広がり意識しており、14番を核に進めながら他の目標内容にも考えが広がっていくように活動を仕組んでいる。低学年においても元三池海水浴場の様子を観察する活動を行っているが、ここでは第3学年以上の活動を紹介する。

(1) 3年生：「有明海の生き物を知ろう」

干潟の様子や干潟に棲息する生き物を観察するために、荒尾干潟に見学に行った。ネイチャーガイドの柿川さんたちに干潟にすむ生き物について教えて頂き、そのことをもとに、有明海にすむ生き物の生態を調べた。12月には天領小学校と「うみまつり」を開催し、お互いに調べたことや考えたことなどを発表したり意見交換したりした。



(2) 4年生：「三池港の環境を守ろう」

元三池海水浴場のごみの様子を調査し、大量のごみがあることを知り、それを回収した。そして、ごみを分別して、ごみの種類と種類ごとの量を調べペットボトルや空き缶などの浮遊ごみが多いことを明らかにした。そこで、ごみが運ばれる一端である諏訪川流域に、ごみを捨てないように呼びかけるポスターを作成して掲示した。



(3) 5年生：「三池港ってどんなところ」

海上保安庁の方に三池港の歴史や機能について教えて頂き、実際にクルーズ船に乗船して港内を見学した。そして岸壁の石積みに明治時代の技術が生かされていることに気付いたり、現在でも自分たちの生活と密接に関わっていることを考えたりした。そして、後日調べたことも含め、三池港の価値を伝えるリーフレットを作成し配布した。



(4) 6年生：「有明海とともに生きる」

有明海の漁獲量が減少している原因について、漁業協同組合の漁師さんや「荒尾干潟水鳥・湿地センター」のセンター長さんと意見交換しながら調べた。そして、人の生活と海とのバランスを保つことの大切さについて考え、自分たちが行動できることを話し合った。さらに、学習したことについて海洋教育サミットを通して情報発信した。



4 本年度の成果と課題

○成果

- ・SDGsの目標の関連と広がり意識した活動を展開したことで、子どもたちは自分たちの生活と諸問題との密接な関わりや、問題の原因が複合的に絡んでいることについて考えることができ、自分たちに行動できることを具体的に考えることができた。

○課題

- ・今年度進めている三校の連携機能強化に向けた取組を計画的に進める必要がある。